

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		「学生が輝く“まち”」再生プロジェクト		担当課
総合計画	政策	――		計画期間
	施策	――		種別
	基本事業	――		市民協働
予算科目コード		01-020107-18 補助	根拠法令・条例等	企画課
				平成28年度～
				任意の事務
				その他

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
短期間の宅地開発により人口が増加したみずき野地区では、急激に高齢化が進んでいる。 この地区のみずき野町内会は、今後の将来を見据えたまちづくりを検討したいとしているが、町内会構成メンバー自体も高齢化が進んでおり、検討メンバーに若者を取り込む必要がある。	関心のある学生に地域活動に参加していただき、みずき野地区に愛着を持っていただくことからスタートする。その後、みずき野町内会、学生、事業者、行政が「みずき野地区の将来を見据えたまちづくり協議会」を設立し、当該地区の長期ビジョンを作成する。一方、学生には、一定期間の活動を通じ、地区に愛着を持っていただいた上で、市が借り上げた空き家（シェアハウス）に移り住んでいただく。地域での生活・活動を通じてシビックプライドが醸成され、将来は、つくばエクスプレスにより東京圏との近接性を強みに持つ本市を「第2のふるさと」として選択いただくことに繋げ、将来に向けて永続的な人の流れを創出することを目指すプロジェクトとして実施する。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
みずき野地区に学生を呼び込み、地域活動に積極的に携わっていただくことで、学生が輝くまちとして再生（地区の活性化・若返り）を図ることを目指す。この目指す将来像は、魅力ある付加価値となり、本市と同様に東京圏との近接性を持つ市区町村と差別化し、U・I・Jターンを促進し、守谷市地方創生総合戦略に掲げる基本方針「『住まう』まち・守谷」を実現することができる。	
（参考）基本事業の目指す姿	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
現在学生の実員9名いるが、3人が就職することが決まっている。そのためいかに地域貢献にモチベーションある学生を「募集」して、住んでもらえるかが課題である。 また、今住んでいる学生たちが築き上げてきたみずき野地域の「縁」をいかに次の学生たちにつなげられるかも課題である。	12月に募集要項を作成し、1月に募集を開始する。2月に説明会及び引き継ぎを行い、3月に入居手続きを完了させる。
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
募集要項に学生たちのこれまでの活動内容をまたまたものを載せるなど、地域貢献の内容を明らかにして募集を行う。また、学生自ら説明会を行い、その際に様々な引き継ぎを行うようにする。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☒ 維持 ☐ 削減	昨年と同様に3棟を賃貸するため。

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度の取組（評価、課題への対応）
シェアハウス事業を継続しながら、平成28年度に実施したアンケートの結果を基に、みずき野地区の長期ビジョンを作成する。	・学生向けのシェアハウス事業を継続した。7月に開催されたみずき野夏祭りでは、学生たち自らが提案したワークショップ企画「みずき野思い出マップをつくろう！」を実施し、この活動を通して学生たちが感じたことや、今後の活動について、市とみずき野町内会役員向けに、報告会を開催した（10/28実施）。 ・次年度の長期ビジョン策定に向けたアンケートの分析、シェアハウス事業の検証、ヒアリングやオープンハウス等を実施した。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
当該地区に転入した学生（卒業生含む）の数（人）	0.00	8.00	8.00	12.00	0.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
■ 向上 □ 横ばい □ 低下	平成29年度は計画していた9人がシェアハウスに入居した。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
■ 拡大 □ 縮小 □ 維持	□ 改善・効率化 □ 統合 □ 廃止・終了	地区からの要望もあり、シェアハウスを3棟から4棟に拡大する。平成30年度当初の時点では定員に空きが生じているため、募集方法を工夫するなどして、早期の入居者確保に取り組む。			

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	0	3,921	6,318	4,961	6,000
	国・県支出金	0	1,960	3,159	2,480	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	1,889	6,000
	一般財源	0	1,961	3,159	592	0
正職員人工数（時間数）		0.00	345.00	218.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	1,415	894	0	0
トータルコスト		0	5,336	7,212	4,961	6,000

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		「野鳥の森散策路と鳥のみち」協働推進プロジェクト		担当課
総合計画	政策	――		計画期間
	施策	――		種別
	基本事業	――		市民協働
予算科目コード		01-020107-20 補助	根拠法令・条例等	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
守谷市まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づき、自然・緑と共生した環境を維持し、市内外の方が憩う場として拡充・活用を進め、市の魅力の向上、地域活性化に向けた事業を開始する。	市民ボランティア団体（守谷市観光協会）が作り上げてきた地域資源を活用して、将来の地方への持続的な人の流れを創出し、持続的な経済効果をもたらす環境を整える。行政、企業、市民等の協働作業により、鳥のみち（木道）の安全性、快適性を向上させ、つくばエクスプレス等の民間企業と連携して自然体験ツアーを開催する等、守谷の魅力を広域的に発信していく。 [具体事業] ・木道の環境整備（更新） ・自然体験ツアー（つくばエクスプレス連携） ・パンフレット、HP等を活用したイメージアップ・PR事業 ・蛍生息環境の整備 ・小中学生の自然体験学習
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
地域資源「守谷野鳥の森散策路と鳥のみち」を活用して、将来の地方への持続的な人の流れ（交流人口から移住促進）を創出し、持続的な経済効果をもたらす環境整備を目指す。この将来像は、魅力ある付加価値となり、本市と同様に東京圏との近接性を持つ市区町村と差別化し、U・I・Jターンを促進し、守谷市地方創生総合戦略に掲げる基本方針「『住まう』まち・守谷」を実現することができる。	
（参考）基本事業の目指す姿	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☐ 維持 ☐ 削減	

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度の実績（評価、課題への対応）
該当なし	野鳥のみち（旧野鳥の森散策路と鳥のみち）を管理する守谷市観光協会を主体として、木道の更新の外、案内板の設置や虫が生息できる水路環境整備を実施した。（作業は、守谷市観光協会、市民、市、首都圏新都市鉄道(株)等による協働作業）

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
野鳥のみちの利用者数（人）	0.00	0.00	0.00	20,000.00	25,000.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
■ 向上 □ 横ばい □ 低下	今年度の更新作業により野鳥のみちの利用環境が強化された。今後、市内外の交流人口を拡大させるためソフト事業を推進していく。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
■ 拡大 □ 縮小 □ 維持	□ 改善・効率化 □ 統合 □ 廃止・終了	守谷の魅力である「守谷野鳥のみち」を市内外の方々に知ってもらい、多くの方に訪れていただけるような地域経済の活性化に資する事業を、首都圏新都市鉄道（株）等の民間企業と連携して実施していく。			

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	0	0	8,931	1,735	1,535
	国・県支出金	0	0	4,465	867	767
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	868	0
	一般財源	0	0	4,466	0	768
正職員人工数（時間数）		0.00	0.00	272.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	0	1,115	0	0
トータルコスト		0	0	10,046	1,735	1,535